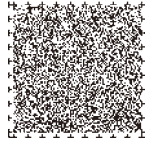




令和3年2月24日
第121号
発行 福岡視力障害センター
〒819-0165 福岡市西区今津 4820-1
(電話) 092 (806) 1361
(FAX) 092 (806) 1365
ホームページ
<http://www.rehab.go.jp/fukuoka/>
印刷 社会福祉法人 福岡コロニー



卒業生に贈る言葉

所長 朝野 収一

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、センターに入所されてから、ご自身の新しい人生を切り開くため、人一倍の努力をされ、幾多の試練を乗り越えて来られました。

特に今年は新型コロナの影響から思うようにいかないことも多かったと思いますが、こうして立派に卒業を迎えることができ、大変うれしく思っています。

これから、社会に旅立たれ、今まで以上の壁にぶつかることがあるかもしれません。でも、ここまで頑張った皆さんならきっと大丈夫です。逃げることなく、あきらめることなく、いつも前向き

同窓会長 楠原 宏和

期待と不安が交錯する中センターに入所され、国家資格取得のため日々の学習はもとより、自立訓練などで苦勞されたことと思います。7名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。このコロナ禍の中新たな道へと進んで行かれるでしょうが、多くの国民がストレスを抱え、心身の苦勞が蓄

自治会代表 高田 孔治

ご卒業おめでとうございます。そして国家試験お疲れさまでした。コロナ禍で、いろいろご苦勞され今に至ると思います。そしてその姿を見ている私たちが在生は、たくましく思いこれからの励みにもなりました。

これからセンターを出てそれぞれの道を歩まれて行くことと思いますが、これからも私たちのよき先導者でいてください。今まで本当にありがとうございました。

な気持ちでチャレンジし続けてください。

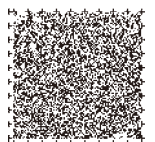
それでも障害の関係でどうしてもできないことがあるかもしれません。その際は遠慮無く支援を依頼していただき、その代わりに、自分ができることであれば積極的にその方にお返しをしていくことで、周りの方とのよりよい信頼関係を築いていただければと思っています。

日本では、超高齢社会がますます進んでおり、地域の医療の一端を担う理療師の存在意義はより高まっています。皆さんには患者さんの体の痛みを治すだけでなく、心も癒やせるような思いやりのある施術者になっていただけるよう期待しています。

積していると思われます。こうした時代こそ鍼灸マッサージ師が活躍していかなばなりません。それには高い学識と技術力が必要です。障害を理由に甘えることなく、一步一步「前」へと進んでください。今後の皆さんのご活躍を会員一同祈念致します。



中庭の桜





教務課担当 石川 健

ご卒業おめでとうございます。今年度は新型コロナウイルスの影響で常識や価値観が大きく変化した1年となったのではないのでしょうか。特に受験生は例年以上に最大級のストレスを抱える状況であったとお察しします。お一人お一人の並々ならぬ努力に敬意を表するとともに、今後の皆様のご健勝と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

支援課担当 関口 雄介

ご卒業、おめでとうございます。7人の卒業学年、いろいろなプレッシャーがあったと思います。この日を迎えるにあたり、様々なことを乗り越えられてきたことと思います。本当にお疲れ様でした。そして今日からは、新たな人生のスタートです。これからが本番です。皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

卒業生からのメッセージ

近藤 大樹さん

入所時は、視覚障害があるから理療という分野を学ばないといけないという思いでした。

最初は、難しそうというイメージで不安もありましたが、時間が経つにつれ、面白さに変わりました。3年間、学んだ知識・経験をこの先の人生に活かし、成長できるように一步ずつ努力を重ねていきたいと思います。3年間ありがとうございました。

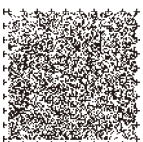
江口さん

特に希望もなく勧められるままセンターに入所しましたが、送り出してくれた家族の為、気をかけてくださいました職場の方々のご厚意に応えたいと懸命に勉学に励みました。職員の方々の支援のおかげで、今では職場復帰という目標を明確に持つことができました。これまで力強い後押しや言葉かけで導いてくださいました方々に感謝しています。

本間 有紀さん

あっという間の3年間。新入生歓迎会から始まり、スポーツ訓練発表会、もちつき大会、中間・期末テスト、地域の運動会、タップダンス、毘沙門山登山、施術所見学、色々な経験をさせてもらいました。今となっては、良い思い出しかないです。一般の人ではできない事ができめちゃめちゃ良かったと思います。センターで出会った、先輩、後輩、同級生、教務課、支援課、庶務課の先生達や職員の人達に出会えた事がうれしいです。

この広い世界で同じ国に生まれ、同じ時代に生まれ、同じ時を過ごし、かかわり、そんなみんなと出会えた事を大事にし、これからの人生は社会に恩返しするつもりでいきたいと思います。



山崎 惇さん

自立訓練から始まり、途中怪我による休学などもあり、センターで6年もお世話になりました。職員の方やクラスメイト、先輩や後輩とたくさんの方々にお世話になりました。生活・職業訓練だけでなく、人として大きな成長ができたと思います。本当にありがとうございました！

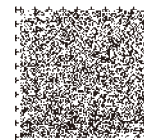
新原 美紀さん

入学当初は、不安だらけでしたが、温かい先輩方・同級生、熱心な教職員の方々のおかげで不安も解消されていきました。

センター生活を通し、コミュニケーション(中でも共感すること)の大切さを学びました。患者さんの話をしっかり聞き共感することで、患者さんは心を開いてくれました。このことは、就職してからも大切にしたいと思います。

さらに予習・復習の大切さも学びました。予習・復習をすることで、授業内容も明確に覚えられるようになりました。

3年間で指導いただきました教職員の方々、支えてくださった後輩の方々、本当にありがとうございました。



障害者週間記念講演

去る12月3日(木)13時30分から、社会福祉法人岡山県視覚障害者協会理事・社会福祉法人岡山ライトハウス理事長の竹内昌彦氏を招聘して、当センター会議室で新型コロナウイルス感染予防対策を徹底した中で、障害者週間記念講演会を開催いたしました。講演テーマは「見えないから見たこと」で、内容を要約すると次の通りです。

竹内氏は、幼少期に全盲となりました。岡山県立岡山盲学校の教頭を勤められ、在職中から各地で「いじめ」や「命の大切さ」をテーマに講演活動を行い、「途上国の視覚障害者にも、マッサージを勉強できる機会を与えて、自立を支援したい。」との思いから、講演活動等で得たものを資金として2011年にモンゴルに、2015年にはキルギスに盲学校を設立されました。2016年、子供たちの中に手術すれば見えるようになる子が沢山

いることに気づき、手術費用を集めるために「ヒカリカナタ基金」を設立され、現在も精力的に活動されておられます。

竹内氏の75歳とは思えない力強い元気なお声での講演を聴きながら、みんな笑ったり涙ぐんだり考えたりと、多くの感動と勇気をいただいた2時間でした。



Eyeあいフェスタ

Eyeあいフェスタは、地域の皆様に視覚障害への興味・関心を持って頂き、少しでも理解を深めて頂くことを目的に行っている当センター主催の体験型イベントです。

今年度は、コロナ禍のため、開催については検討を重ねましたが、感染症対策を十分に行い、11月3日(文化の日)に開催しました。

例年通り、会場は九大学研都市駅前の「さいとびあ」(西部地域交流センター)に提供して頂き、高校生ボランティア、福祉機器業者、盲導犬協会の

皆様にもご協力頂きました。スポーツ体験、点字体験、迷路、感覚体験、盲導犬の実演など趣向を凝らしました。386人と予想を上回る方々にご来場頂き、十分に対応しきれない面もありましたが、盛況のもと無事に終えることができました。

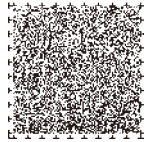
「目が不自由な方がどういうふうに住んでいるかがよく分かりました。親子共とても楽しかったです。」等々様々な感想を頂きました。今後も多くの地域の皆様に来て頂けるよう楽しいイベントにしていきます！



イベント内容		
<p>● ゴールボール 見るんじゃない、感じるんだ！ 場所：体育館</p>	<p>● ポッチャ 床の上カーリング、やってみるー？ 場所：体育館</p>	<p>● 暗黒迷路 めかかして迷路から脱出できるかな！ 場所：1階ロビー</p>
<p>● サウンドテーブルテニス ピンポン球の音を聞いてスマッシュを決めてみよう！ 場所：体育館</p>	<p>● 盲導犬 ふれて学ぼう！ 場所：体育館入口</p>	<p>● 手引き体験 めかくして、安心・安全に歩いてみよう 場所：1階ロビー</p>
<p>● マッサージ 無料で15分間マッサージします。 場所：体育館</p>	<p>● 日常生活展示 視覚障害者の生活を体験する道具をさわろう 場所：体育館</p>	<p>● 感覚訓練 (アートクラフト) ふれてさわって遊んでみよう 場所：体育館入口</p>
<p>● 水くみ体験 目隠して水くみ器で水をかき出せるかな？ 場所：体育館</p>	<p>● 点字コーナー 実際に点字を打ってみよう！ 場所：体育館</p>	<p>● 利用相談コーナー 福祉センターの紹介・相談コーナー 場所：体育館</p>



復職支援について



西畑さんの自立訓練（機能訓練）にあたって

令和2年5月に職場の上司とともにセンター来所。簡単な視機能評価を実施し、対処方法を提示し、情報提供を行い、訓練にあたり必要な職場の協力を依頼しました。

訓練は、8月初めから4ヶ月間、週2日、主に歩行、PC、ロービジョン訓練を実施した。センターで2日行った訓練を職場で3日実践し、曖昧なことを明確にしながらの訓練となりました。

自立訓練修了生 西畑 佳央里さん

私は網膜色素変性症で、視野は狭いですが矯正視力が0.2程度あったので、これまで残っている視機能を使って行政事務の仕事をしてきました。しかし、令和元年ころから視力が悪化し、事務を

行うことが少しずつ難しくなってきました。さらに、令和2年4月に職場の異動があり、これまでと違う分野の事務やシステム操作に慣れず、困っていたところ、職場の上司が障がい者の職業相談を行う施設に相談し、そこでセンターの紹介を受け、自立訓練を受けることとなりました。

私はロービジョン訓練を受け、自分の視野の中で有効に使える範囲を自覚したことで、文字等の認識が速くできるようになり、事務作業を行うスピードが大幅にあがりました。

センターで自立訓練をうけたことがきっかけで、職場で様々な機器の導入整備をしていただくことができ、業務を円滑に進めることができるようになって、とてもうれしく思っています。お世話になったセンター職員の皆さまには本当に感謝しています。ありがとうございました。

就労移行支援（養成施設）

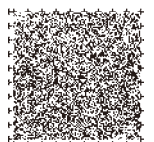
就労移行支援卒業生 井上 浩一さん

私が入所したのは、「何かできる事はないかなあ」と考えたことです。

あん摩やマッサージを行うにも国家資格が必要な事を知り就労支援を選択しました。資格取得のための学習、臨床に必要な技術取得は簡単なものではありませんでした。視力低下が急激に進み学習に限界を感じ諦めようとした時、パソコンでの学習方法を知り非常に助かりました。同級生を筆頭に全ての利用者、職員の皆様に感謝いたします。現在、国立大学法人九州大学にヘルスキー

パーとして勤務しています。九大伊都キャンパスは、東京ドーム58個分にもなる広大な敷地です。そのため固定の運行ルートを持たないAIバスも導入されています。緊急事態宣言も出される中、必要な消毒、換気には最大限留意して施術を行っています。

最近、施術する喜びがわかってきました。国試に向け困難な日々を過ごされていることと思いますが、努力は明日にも花をひらき実を結んでいきます。私も知識と技術研鑽に努めて参ります。



もちつき大会

開催自体を見送ることも検討した「もちつき大会」ですが、感染対策を万全に行った上で、実施しました。

もちつきは体験のみとし、ついた餅は鏡餅にして、別途用意した「ぜんざい」の提供という形での実施となりました。

感染対策としては、会場に入る前に手洗いを徹底し、アルコール消毒、ぜんざいを食べる時以外はマスク着用、テーブルは同一方向を向き着席、食べ終わったテーブルの消毒などを実施しました。

数名の方がもちつきを体験し、小さい声で、利用者職員共に歓談しながら、楽しい時間を過ごすことができました。このような企画ができたのも、共催という形で協力していただいた利用者自治会と利用者一人ひとりがしっかりルールを守って参加していただいたおかげです。

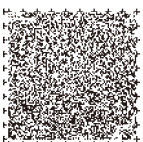
もちつきには連帯感を高め、喜びを分かち合うという社会的意義があります。利用者、職員ともにこの大変な状況を心を一つにして乗り越えていくという気持ちを再確認することができたのではないのでしょうか。



新職員の紹介

支援課 関口 弘一

12月1日付で参りました関口と申します。海なし県埼玉出身で、福岡センターから見える博多湾に感動する毎日です。初めてのセンター勤務ですので、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、精一杯頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。



福岡センターにおける新型コロナウイルス感染症予防対策について

新型コロナウイルスは令和元年12月より徐々に感染が広がり、1年を経過した現在も収束の兆しがみえない状況ですが、福岡センターにおいても新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策をさまざま行ってまいりました。

卒業式をはじめ、センターで実施する各種研修会等の行事においては、内容を見直し時間短縮を図るとともに、密を避けるため参加人数を減らし、かつ座席の間隔を空けることや、会場の換気を実施してまいりました。

廊下、階段の手すり、教室や訓練・実習室の机・椅子の消毒や、廊下・教室の窓を開き、セン

ター内の換気を各課職員で手分けして毎日行い、また、休日は日直職員にて、廊下や階段の手すりの消毒も実施しています。

また、利用者の方々には朝の検温体調チェックをはじめ外出・外泊からの帰所時にも必ず検温体調チェックを行い、手洗いの励行、消毒にご協力して頂いております。

手洗い、環境消毒に伴う手荒れも心配ですので、早く収束して欲しいと願いつつ、引き続き感染拡大防止に努めてまいりますので、皆様のご協力よろしくお願ひします。



机や椅子など消毒



利用者が触れる壁も消毒

1月8日 久しぶりの積雪



グラウンドも真っ白です





利用者募集

1 当センターが提供する施設障害福祉サービス

サービス名	サービス内容	利用開始日	利用申請受付
自立訓練 (機能訓練)	歩行訓練、点字訓練、パソコン訓練、タブレット訓練、日常生活訓練（身辺処理・調理等）、スポーツ訓練、ロービジョン訓練、教養等	随時 (原則として 月曜日)	随時
就労移行支援 (養成施設)	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家試験受験資格取得に向けた学習、進路支援等	毎年度 4月上旬	年3回

※通所が困難な方に宿舎・食事・生活支援等を行う「施設入所支援」サービスも提供しています。

2 利用に関する問い合わせ

サービス利用や利用料等の詳細、パンフレット・紹介ビデオ(DVD)等の送付、施設利用のお申し込み、見学をご希望の方は、下記までお気軽にお問い合わせください。

電話：092-807-2844(支援課直通)

092-806-1361(代表)

Eメール：shienka-f@mhlw.go.jp



(ホームページQRコード)

編集後記

高田 孔治(専門課程2年)

こんにちは。この度はコロナ問題の中、いろいろな行事の開催が行えるか不安な状態でしたが、センター職員の皆様の細かな消毒に換気と、利用者へのお声かけで、安全に生活することが出来ました。センター職員の皆様、そしてご協力して下さった利用者の皆様ありがとうございました。これからも、手洗いうがいマスクと気を付けながらお過ごしくださいね。それではまた……。

牛山 幸恵(専門課程2年)

コロナに始まりコロナに終わった令和2年度。またいつ休校になるのか、私たち2年生にとってもハラハラした1年でした。そして、患者さんの健康を支える施術者のたまごとして、予防とはなにか。対策とはなにか、治療とはなにかを改めて考えさせられた1年でもありました。もしかして、今こそ東洋医学の出番では? 神秘的に包まれた東洋医学の力が、いつか世界中のウイルスを撲滅してくれるかもしれません。そんなことを願いながら、先に巣立つ先輩たちの活躍を祈る今日この頃です。

